

(ほんとうにあった話をもとに書かれました)

そろそろねる時間です。けれどもサムはまだねむくありません。

「ママ、ワクワクするお話をして」とサムは言いました。「ママが小さかったころのことを聞かせてよ。」

「いいわ」とママが言いました。ママはサムのかみをなでて、少し考えました。

「小さいころね」とママが言いました。「ママたちは町づくりごっこが大好きだったの。毛布や椅子を使って家を作ったわ。きょうだいた



# ワクワクするお話を聞かせて

ちはみんな仕事を持っていたのよ。」

「ママの仕事は何だったの？」サムは聞きました。

「お店屋さんよ。紙でお金を作って、食べ物や新聞を買えるの。自分たちの町で遊ぶのが大好きだったわ。」

「ほかには何をしたの？」サムは聞きました。

「あるときは、町に動物園を作ったの。ぬいぐるみを使ってね。」

サムは自分のテディベアをさし出しました。

「こういうの？」

「そう、そういうの」とママは言いました。「みんな動物園に見に来られるの。」

サムはテディベアをだきよせました。「ママ、もっと聞かせて。」

「おたがいに手紙も書いたりしたわね。うそっこの郵便受けにそれを入れて。サムのおじさんが

郵便屋さんで、みんなの家に手紙をとどけてくれるの。手紙をもらうのは楽しかったなあ。」

サムも手紙を書きたくくなりました！明日、書いてみようかな。

「時々けんかもしたわ」とママが言います。「それでもごめんねと言って、また一緒に遊んだの。みんなで仲良くして、楽しむことを学んだわ。」

「ぼくとアバと同じだね」とサムは言いました。

「そうね」とお母さんが言いました。「そのとおりよ。あなたたちも今、仲良くすることを学んでいるわね。」

「ママのお話、楽しかった」とサムは言いました

た。「また明日、別のワクワクするお話を聞かせてくれる？」

「もちろん」とママが言いました。「サムのお父さんが小さいころのお話を聞かせてあげるわ。」

ママはサムにキスして、毛布をきちんとかけ直しました。

「おやすみ」とサムは言いました。そして目をとじ、動物園や町や紙のお金のことを思いうかべました。

家族のお話を分かち合えば、それは家族れきしです！  
あなたはどのようなお話を分かち合うことができますか。